



# かどや通信

第22号

発行日：平成29年9月

発行：かどや保存会

発行責任者：清水 久行／編集：廣野 克子

## 小学校から大学まで 学生さんがやって来た！

かどやでは毎年、学校が夏休みに入る七月下旬から八月末まで、「かどやで寺子屋」をはじめ、小学生に焦点をあてたイベントを実施している。平素は静かなかどやだが、子供たちが館内や庭を駆け巡るのがかどやの夏の風物詩になっている。

### 《米国中学生がやって来た！》

鳥羽市国際交流協会では、カリフォルニア州サンタバーバラ市との交流プログラムの一環として、中学生の派遣・招致事業を行っている。



二十六回目  
を数える今回は、八月八日から十八日にサンタバーバラの中学生四人が鳥羽でホームステイし、ミキモト真珠島や鳥羽水族

館、海の博物館等の見学に加え、ストラップ作りや海女小屋体験等を行い、かどやでは茶道にチャレンジした。



毎月かどやで簡単茶道教室を開いている裏千家の千草宗石さんの指導のもと、地元の中学生と共に茶道の作法を体験。四人は千草さんが準備した浴衣に着替え、神妙な面持ちで石臼で茶を挽くところから始まり、お茶を点てたり、抹茶を飲んだり、日本の伝統文化に親しんだ。

### 美大生がやって来た！ なかまちをアートでつなぐ

「鳥羽なかまちアートネット展」と称し、八月二十六日から九月三日まで、かどやを含む鳥羽なかまち会メンバーの店舗等に、女子美術大学の学生の作品が展示された。

同展は、同大と鳥羽なかまち会との協働プロジェクトで、なかまち会メンバーとの対話を通して得たインスピレーションを基に、学生達それぞれの得意分野の油絵や彫刻、ガラス工芸、織物等を制作。それら

の作品をなかまちの六会場に分散展示した。

アートネットとは、人のネットワークと芸術を掛け合わせた造語で、学生たちの指導にあたった同大准教授のリンダ・デニスさんが企画したものだ。デニスさんは、以前から漁網を使って「つながり」を表現した制作活動に取り組んでおり、「この展示を通じて、なかまち会や学生、見学者等に新しいつながりができ、町に賑わいを生み出したい」と話す。学生たちはデニスさんと共に八月二十一日から鳥羽市内で合宿をしながら、五メートル四方の布地になかまちのイメージを描いた横断幕の制作も行った。完成した幕は、九月三日に、なかまちの入り口となる中之郷会館の壁面に飾られた。

かどやには、油絵、織物、ガラス工芸と赤崎神社をピンホールカメラで写した作品が展示され、地元住民はもとより、学生の両親や、デニ



スさんが以前展示会を行った熊野や紀伊長島からも見学に来られ、新たな「つながり」が生まれた。

## かどやの夏休み 子供たちがやって来た！

かどやでは毎年、夏休みにはクローラーの効いた涼しい座敷で子供達が夏休みの宿題に取り組み「かどやで寺子屋」をはじめ、「かどやワクワク子供塾」を開催している。

今年も夏休みに入ると、早速子供たちがわさわさとやって来た。

### 《寺子屋の夏がやって来た！》

かどやの寺子屋は五回目となるが、今年も七月二十一日から八月十日まで、月・水・木・金曜日の九時半から十二時まで開校された。

一昨年までは、鳥羽小学校の生徒だけだったが、昨年からは安楽島と加茂の小学生にも声をかけたところ、



参加者が増え、昨年は延べ百六十名、今年はなんと二百八名が参加。初日には三十名がやって来て、事務局を慌てさせた。

塾通いと掛け持ちの子供たちもおり、時間の関係で、日によっては九時前に雨戸が空くのを待っていたこともあった。

例年、庭や館内を時間構わず駆け巡る子供たちも多かったが、今年は十時半から十一時を休憩時間とし、それ以外の時間は「勉強に集中！」としたところ、メリハリが出来、宿題の進みも早かったようだ。

### ワクワクこども塾で思い出作り

今年もかどやでは、夏休みに楽しい思い出を作ってもらおうと、三つのワクワク子供塾を実施した。

#### 《おさかな工作とフルーツポンチ作り》

鳥羽まちなみ水族館(代表：水谷



伸子さん)とのコラボで三年連続で実施している当プログラムは、八月三日に行われ、



十七名が参加した。

まず、毎年好評のフルーツポンチ作りに挑戦し、スイカを切っ

たり、缶詰めを開けたりしながら、包丁や缶切りの使い方も学んだ。この間、怪我のないようにとスタッフがつきっきりでサポートした。

フルーツポンチを冷やしている間、庭ではおさかな工作に挑戦した。海のごみを使ってさかな等の作品を作るもので、鳥羽まちなみ水族館のメンバーが七月末に安楽島海岸で集めた流木や貝、おもちゃ等のごみの中から自分の作りたい作品をイメージして材料を選び、まちなみ水族館のメンバー五人の指導により作品を作り上げた。



鳥羽まちなみ水族館の協力により、一昨年は箱海作り、昨年は風鈴作りを実施したが、今回は材料選びも子



供たちが行ったことで、作品はバラエティに富んでいた。水谷さんは「子供たちがそれぞれの個性が光る作品が出来た。」と話して



なお、工作の模様は、海ごみをアートに活用した事例として、八月十六日に三重テレビで紹介された。

冷えたフルーツポンチを味わって、お開きとなった。

子供たちの作品作りの後ろでは、水谷さんが三重TVの取材に答えていた



## 《人気学芸員にワクワク》

十日にはケーブルTVの長寿番組「もっと水の惑星紀行」に出演している鳥羽水族館の杉本学芸員を迎え、「海の生物の話」をしていた。杉本さんはテレビの人気解説者であって、大人四名を含む二十七名が参加。中には、大ファンなので、伊勢からの参加者もいた。

杉本さんはまず、世界中の水族館のなかでも鳥羽水族館でのみ飼育しているジュゴンについて触れ、イルカとの生態の違いや、ラッコの体の仕組み等を紹介した。



また、持参したおうむ貝を使って、名前の由来について絵をかいて解説したり、実物の歯型を見せてサメの歯の仕組みを紹介する。

など、海の生物について、写真や実物を見せながら分かりやすく話してくれた。

開始当初、子供たちは少し緊張気味だったが、話が進むにつれて目をキラキラと輝かせ、最後まで食い入

るように熱心に聞き入っていた。

その後、クールダウンも兼ねて、庭でかき氷がふるまわれた。付き添いのお母さんたちも、かき氷作りを手伝い、子供たちはお好みのシロップをかけて、かき氷を楽しんだ。

庭では遠慮がちに杉本さんに近づき、質問する子たちもおり、かき氷も堪能して、解散となった。

杉本さんと出会い、海の生物の面白さを知った子供たちにとって、この日は、格別な夏の思い出になったに違いない。

## 《初っぴん打ちにワクワク》

二十四日に行われたうどん打ち体験には十七名が参加した。

全員にうどん打ちをしつかり体験してもらおうと、参加者を五班に分けてスタートした。

うどん打ちに必要なうどん粉や塩等はすでに計量され、めん棒やめん打ち板等と共に配置されており、班毎にかどやサポーターもスタンバイした。子供たちが位置につくと、かどや最強の事務局・三代目が全体



の流れを説明して、いよいよ体験開始。まず、うどん粉に水を混ぜてこねることから始めたが、初めはうどん粉が



手にベタベタとまつわき、戸惑い気味。徐々に慣れてくると、なかなかの手つきでうどん粉を練るようにな

り、「ええ硬さになった」等と、他班のものと比較しながら、それぞれのうどん玉が完成した。本来は、ここで少なくとも2時間はうどん玉を寝かせるのだが、時間の関係で、サポーターが前日作って寝かせておいたものに差し替えた。自分達のうどん玉には愛着があるようで、少しがっかりした様子だったが、気が取り直し、めん棒で玉を延ばし、包丁で麺を切る作業も行った。麺切りはかなり難しく、過ぎたり、幅がそろわなかったりしたものの、うどん打ちは無事完了。ゆで時間には、サポーターの読み聞かせも聞いた。茹で上がったうどんは、それぞれの班で延ばして切ったもので、太さも硬さもまちまちだ。それでも自分達が打ったうどんは格別のようで、スタッフが早朝から準備したちくわとかぼちゃのてんぷらをトッピングに、伊勢うどんとは異なる硬めのうどんに舌鼓を打っていた。

## うどん会議⑥

うどん打ちの企画は、ボランティアのカヨちゃんの発案だ。自宅には、うどん打ち用の道具も揃っており「きつと子供たちのいい思い出になるわ!」と張り切っていた。ところが諸般の事情でカヨちゃんは当日不在。さらに料理上手で手際の良さも抜群のチェミちゃんまで諸般の事情で欠席することに。頼るは三代目事務局マオちゃんだが、うどん打ちは他のスタッフ同様、経験はゼロだった。

そこで、うどん会議と銘打って、カヨちゃんを囲み、前日の仕込みも加えると三回も予行演習を行ったのである。一回目は太過ぎで、あごの発達に効果的な噛み応え抜群のうどんとなった。試食タイムは噛むことに集中し、全員ひたすら無言だった。この課題を克服すべく、二回目には太さに配慮し、ゆで時間も長めにしたところ、ピッカピカでつやつやのうどん誕生にスタッフ一同大感激。三回目は余裕も生まれ、本番を待つのみとなった。うどん問題は解決したが、トッピングも議論の対象となった。うどんだけでは味気ないので、てんぷらを乗せるのはすんなり決まったが、かしわかちくわか。はたまた、かぼちゃかさつまいもかも真剣に討議。結果は上段に記したとおりだが、かぼちゃがうどん以上に好評だった。当日の仕切りもカヨちゃんからマオちゃんにかわり、ギョツとしたようだが、さすがは三代目。仕切りも見事にこなしてくれた。カヨちゃんがスタッフ用に運営マニュアルをきっちり作ってくれたのも成功の大きな要因だが、今回も縁の下の仲間たちのチームワークで、子供たちだけでなく、スタッフにとっても素敵な夏の思い出となった。

## 《地域の魅力を「磐座」で語る》

第五十一回かどや塾は、郷土史家・江崎満さんに「伊勢志摩の磐座」が宿る岩をテーマにお話しいただいた。江崎さんは、鳥羽を含む伊勢志摩の浅間さんを調べ尽くしたフィールドワークの達人だ。

今年も本浦から五ヶ所に至る祠を調べていたところ、大きな岩は直線上に点在していることに気付いた。そこで、元教諭の山下直樹さんのアドバイスを受けながら調べていくと、かつて岩は神が宿る磐座として信仰の対象になっており、直線上に点在するのは仏像構造線と呼ばれていたこと等を紹介。また、離島の神島や答志島、菅島では、岩礁が磐座として信仰され、竜宮や龍神信仰にもつながること等、興味尽きない当地域の魅力を熱く語った。



現在、山下さんと共に磐座をテーマに当地を\*ジオパークに登録する活動にも力を注いでいる。「地元民にとってはありふれた風景でも、ジオパークとして注目を浴びれば、興味の尽きない場所として、当地を誇りに思ってもらえるはず」と、ジオパーク登録への思いも力説した。

## 未来への贈り物

### 地域の伝統文化を映像保存

鳥羽市在住のアマチュア映像作家の奥田正男さんが撮影した貴重映像映写会が行われ、「永遠の炎」と「国崎の熨斗鮑」の二本が放映された。

「永遠の炎」と題した映像は、国の重要無形民俗文化財で、かつて志摩加茂五郷とよばれていた地域の盆祭行事の一つ「河内の火祭り」を撮影したもののだが、人出不足により残念ながら現在は中断されている。奥田さんは、大切な村の伝統を残しておきたいと様々な行事を自費制作している。当作品は平成十四年に撮影されたもので、クライマックスの夜の火祭りだけでなく、昼間の準備段階から撮影されており、同郷の村人たちが一丸となって作業する様子が写されている。「国崎の熨斗鮑」は、神宮に奉納するのし鮑を作る神事を紹介したものだ。

参加者からは「本当にええものを見せてもらえました」「知り合いのおじいさんができて、なつかしかった」等、奥田さんの偉業に多くの賛辞が贈られた。

\*ジオパークとは…地球・大地(ジオ)と公園(パーク)を組み合わせた造語で、地球科学的な価値をもつ遺産を、教育やツーリズムを活用しながら持続可能な開発を進める地域認定プログラムである。

## ◆◆貸部屋の案内◆◆

かどやを有効にご活用いただくこと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などにご活用ください。詳細は、かどやへ。電話〇五九九―二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された使用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

## かどや保存会 平成29年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで28年度は340名、今年度も9月20日現在で316名の方々が会員登録してくださいました。今後も一人でも多くの方々に楽しんでいただけるよう、更にこの和を広げたいと思います。登録がまだの方は、是非ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

29年度(H29/4/1～H30/3/31)の年会費(2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入ください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751  
百五銀行 普通 かどや保存会 801-460713